

東大EMP第18期プログラム 最終報告発表 概要

(2018年3月3日)

チーム・メンバー	課題テーマ	タイトル	概要
<p>[チーム1] 小沼 大樹 顧 学範 逆井 幹則 嶋田 浩延 平川 昌紀 山田 メユミ</p>	<p>健康的で活力のある 超高齢化社会経営</p>	<p>希望ある少人口・ 長寿社会の実現</p>	<p>現在の日本が直面している超高齢化社会の大きな要因は長寿化である。医療技術の進歩や生活習慣の改善により国民の平均寿命は伸び続けている。本来、長寿は喜ばしいことであるはずだが、高齢化社会は不安が取り巻く暗い側面ばかりが課題として語られ、なかなか希望のあるものとして捉えられていないのが現状である。 最新の将来推計人口の中位推計においては、今から約50年後の2065年には総人口は8,800万人、65歳以上の人口の割合が38%に達すると予測されている。我々は、「お金」、「健康」、「人とのつながり」を明るい未来を築くための3つの軸として考え、2065年の少人口・長寿社会において実現できる明るい未来を提示していきたい。</p>
<p>[チーム2] 五唐 裕也 篠田 篤 藤崎 雄二郎 柳井 聡史 山口 雅崇</p>	<p>資源・エネルギー活用 の規律による環境保全</p>	<p>「脱炭素社会」に向けて ～ 企業がリードする 温暖化対策 ～</p>	<p>日本政府は2050年までに二酸化炭素排出量を80%減らすことを閣議決定しているものの、国内では地球温暖化に対する意識は高まっていない。パリ協定以降、欧州投資家・企業中心に脱炭素に向けた行動が取られるようになってきた中、日本はなぜこの足を踏むのか。脱炭素に向け、企業活動やその投融資に対して働きかけを行うことでポジティブフィードバックを引き出し、国民全体へ波及させることができるか、その方策を提言する。</p>

東大EMP第18期プログラム 最終報告発表 概要

(2018年3月3日)

チーム・メンバー	課題テーマ	タイトル	概要
<p>[チーム3] 岡 大輔 北村 貴志 中曾 極 松澤 宏 和田 拓士</p>	<p>経済・金融分野の貢献 と影響力の制御</p>	<p>粋な金融 ～社会課題解決 のためのシステム～</p>	<p>近年、経済のグローバル化を背景に金融機関は巨大化し、また、金融工学の発展が過剰な信用創造へとつながり、世界的な金融緩和政策と相俟って、金融経済は実体経済から乖離し、また実体経済以上に膨張するようになった。 実体経済の成長や社会問題解決への金融の貢献は不十分であり、まさに市場の失敗といえる状態となっているのではないかと。 我々は日本における金融の歴史を振り返りながら、「社会的共通資本」「人的資本」「粋(いき)」の3つの概念を用い、従来なかった新しい金融のサブシステムを提言したい。</p>
<p>[チーム4] 青木 志帆 清瀬 一浩 富本 聖仁 堀口 美奈 松田 慎司 渡辺 真理子</p>	<p>多様な宗教、文化、 政治を前提とした共通 行動規範確立</p>	<p>共通行動様式としての 『脱関心サイクル』</p>	<p>多様な宗教、文化、政治を前提とした共通行動規範など、確立できるのか?! 確立できるとすれば、それは価値観を伴う規範ではなく、行動様式なのではないか。強すぎる関心を断ち切り、状況を客観視して、自己変容へとつなげていく「脱関心」のサイクルによるコンフリクトの解決、そして社会全体の変化の可能性について、実際に世の中にある事例とEMP講義から迫ります。</p>
<p>[チーム5] 北川 敬明 関本 邦夫 戸田 洋平 殿岡 貴志 森光 宏</p>	<p>先端科学技術の効用 と新世界観の形成</p>	<p>人と自然に寄り添う 科学・技術と社会</p>	<p>科学・技術の進展スピードは近年加速し、ゲノム編集(ヒト胚の遺伝子操作)、地球環境問題等、負の影響も顕在化している。また、際限のない欲望の果てに格差が拡大し、ナショナリズムの台頭、テロの頻発、心の問題にまで及んでいる。 これまでの科学・技術は、機械論的・要素還元的世界観に基づいて発展してきたが、我々は生命論的・全体俯瞰主義、共創・調和といった価値観に立脚した新しい世界観、「人と自然に向き合う科学・技術と社会」を提案する。 この新世界観を実現する為の良循環を描き、教育、研究、対話、グローバルの切り口でソリューションスペースを展開していく。地球の自己調整機能や人智を超えて進化していく科学・技術とどう関わっていくか。新しい世界観による明るい未来の実現に向けた取り組みについて、一緒に考えていきたい。</p>